



宮下沙希
作業療法士

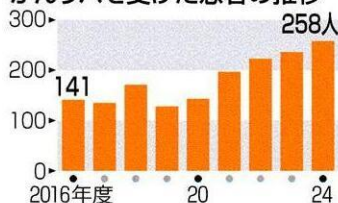
沈みやすいがん患者の心の
つらさにも対応するのが特
徴だ。がんリハを受けた患

医療
最前線

県立中央病院から
〈314〉

山梨県立中央病院ががん
に関するリハビリテーショ
ン（がんリハ）を導入して
から、本年度で10年目を迎
えた。がんの種類ごとに違
う体の不調に加え、気分が

山梨県立中央病院
がんリハを受けた患者の推移



「がんリハ」導入10年 利用倍増 心身ケア、社会復帰支える

者は、初年度の約2倍に増
加。今後もがん治療後の患
者の生活の質の向上や、社
会復帰を支えていく考え。
がんリハは、がんと診断
されて放射線療法や化学療
法、手術を行う患者が対象。
実際には、体力が落ちて合

併症が起こりやすい高齢者
が受けるケースが多いとい
う。
がんの種類によってリハ
ビリのメニューはさまざ
ま。言語聴覚士や理学療法
士、作業療法士らが連携し
て対応する。話すことが難

がんが転移した部分の骨
は折れやすい。折れないよ
うに注意を払った着替え方
や入浴方法を教える。治療
前に比べて体が動けず、自
宅退院後の生活に不安を感
じる場合はケアマネジャー
らと連携し、介護ベッドや

も応じている。
病院で2024年度にが
んリハを受けた患者は25
8人。がんリハ導入初年度
の16年度の141人と比
べ、117人増加した。が
んリハの必要性について医
師の理解が進み、患者にリ
ハビリを促してきたことが
要因という。転院せずに自
宅に戻れた患者も多い。

しくなれば、口や舌の運動
や人工的に声を出す機械の
利用を促すなどして、円滑
なコミュニケーションにつ
なげる。たんがうまく出せ
ない場合は、気管支にたま
って肺炎を起こさぬよう、
呼吸しやすい姿勢を伝え
る。

手すりなど適切な福祉用具
の設置を提案する。
がんリハの内容は筋トレ
や歩行訓練、食事・排せつ
・入浴支援だけではない。
若年層を含めてがんと診断
されて落ち込む患者に寄り
添い、今後の生活への不安
といった心理面での悩みに

希作業療法士は「多くのが
んで生存率が改善し、がん
とともに生きる時代になっ
た」と説明。「自宅退院後
に仕事に復帰したり、趣味
に取り組んだりしたいとい
う患者の願いが実現できる
よう、今後も力を尽くした
い」と話している。
Ⅱ第2、4火曜日に掲載し
ます